

人文会ニュース

jimbunkai news

December 2016

NO. 125

1
15分で読む

15分で読むイスラーム

橋爪大三郎

14
書店現場から

あの日から一年たって

鈴木慎二

19
図書館レポート

「ライブ・イン・ライブラリー」

——考える、話す、伝え合う。また考える

成田康子

32
編集者が語るこの叢書・このシリーズ⑩

『日本近代の歴史』（全6巻）

——ぼくらの「日本近代史」なんだぜ

永田 伸

2016年研修旅行報告



www.jimbunkai.com

ポイエシス叢書68

信と知

たんなる理性の限界における
「宗教」の二源泉

ジャック・デリダ 著／湯浅・大西 訳

〈宗教〉をめぐる一大コロックでの講演を
もとに、その後に大幅加筆された追記(ポ
スト・スクリプトゥム)とあわせてまとめら
れた後期デリダの代表的宗教論。1800円

ポイエシス叢書69

最後のユダヤ人

ジャック・デリダ 著／渡名喜庸哲 訳

晩年のデリダがユダヤ人、ユダヤ性など
をめぐって1998年と2000年になされた
二つの講演を、盟友「J=L・ナンシー」の緒
言とともに収めた講演録。1800円



未来社

〒112-0002 東京都文京区小石川3-7-2
TEL03-3814-5521 FAX03-38145596
<http://www.miraisha.co.jp/> ※表示は税別

果報者ササル

ある田舎医者物語

バージャー／モア 名もなき村医者の生き方のうちに「肯定
的な世界観の種」を見出す傑作エッセイ。村松潔訳 三〇〇円

幼年の色、人生の色

長田弘 昨年逝った詩人が最後に編んだ自選エッセー集。土
地、旅、ポップ・ディラン、猫など親しめる三十八篇。二四〇円

失われたもの

斎藤貴男 新たな「戦前」のいま、失われたのは自営業の自
律と経済。「平和と平等」の理想。初エッセイ集。三〇〇円

テクノロジは貧困を救わない

外山健太郎 マイクソフト研究所での実践が生んだ解は、
《人そのもののアップグレード》だった。松本裕訳 三〇〇円

みすず書房 (税別)

東京本郷5-32-21 <http://www.ms2.co.jp>

当たり前前の日常生活、その歴史を紐解く！

日本生活史辞典

木村茂光・安田常雄・白川部達夫・宮瀧交二 編

衣食住から労働・遊び・家族・大衆文化・
経済・近年の社会問題まで約2700項・
目を収録する。特価25000円(期限
17年3月31日、期限後27000円)



ここまで変わった日本史教科書

高橋秀樹・三谷芳幸・村瀬信一 著 記述の変化とその根拠とな
る研究の進展を教科書の専門家が解説。(5刷) 1800円

吉川弘文館 東京都文京区本郷7-2
☎03-3813-9151 / 税別

日本経済新聞、毎日新聞、
読売新聞ほかで紹介。いま話題の二冊！

猪木武徳著

大阪大学名誉教授
国際日本文化研究センター名誉教授

自由の条件

―スミス・トクヴィル・福澤諭吉の思想的系譜

古典を渉猟し、現代のデモクラシーの問題で
ある「自由」と「平等」のジレンマに迫る。

「叢書・知を究める⑧」 本体価格3000円

ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1
TEL075-581-0296 価格税別 / 宅配可

— 15分で読む —

15分で読むイスラーム

1 一神教としてのイスラーム

イスラム教は、一神教である。ユダヤ教、キリスト教という先発の一神教を土台に、うまれた。

一神教。これが、イスラム教を理解する最初のキーワードだ（アラビア語の発音はイスラームに近いが、簡単のため以下、宗教をさす場合は「イスラム教」と表記する）。日本人が頭に浮かべる宗教が、小学校の算数だとすると、イスラム教は宗教として、抽象代数みたいに精密なので、覚悟してほしい。

神は創造主

一神教は、唯一の神が、この世界を「創造」したと考える。天も地も、海も山も、植物も動物も人間も、すべてを創造したのだ。この唯一の神を、アッラーというアラビア語で「神」という意味の、普通名詞である。

イスラム教の聖典は『クルアーン（コーラン）』である。アッラーがどうやって天地と世界を創造したのか、詳しいことはあまり書いてない。ユダヤ教の聖典『タナハ』（旧約聖書）の創世記をみなさい、なのである。ユダヤ教の神ヤハウェも、キリスト教の神ゴッドも、アッラーと同じものなのだ。

アッラーが世界を創造したとは、どういう意味か。人間の「主人」だという意味だ。人間に身体を与えたのも

橋爪 大三郎（社会学者）

アッラー。生命を与えたのもアッラー。水や食べ物や、生存の条件（自然）を与えたのも、アッラー。動物もアッラーに造られたが、動物はそれが理解できない。でも人間はそれが理解できるから、アッラーに従う（信仰をもつ）べきなのだ。

イスラム教は、ユダヤ教、キリスト教と違って、アッラーは人間のほかに、天使と幽鬼（ジン）も造ったとする。天使はもっぱらアッラーを讃美。幽鬼はおおむね悪をなす。

神の主権

創造主である神からみれば、被造物であるこの世界はどうみえるか。自分の所有物にみえる。完全な支配権、処分権がある。これを、神の主権という。神は「全知全能」だ、と言い換えてもいい。これを素直に認めることが、一神教の信仰の出発点だ。

そんなことを言うが、神がこの世界を支配している証拠がどこにあるか。天体は規則的に軌道を回り、物理現象は自然法則どおりに起こり、生き物は生存競争のなかで生まれたり死んだりしているではないか。これに対し

て一神教はこう答える。神は視えないからといって、存在しないと思っはいけない。機械的にみえる自然法則にしても、神が造ったものである。だから神は、世界を支配している証拠に、任意に自然法則に介入し、一時停止できる。これが、奇蹟（ミラクル）だ、と。

神が、この世界を支配しているのだから、神の意に反した出来事は決して生じない。神は全知全能で、地上のすべてをモニターしている。事故や災害で人びとが死ぬのも、東日本大震災が起きるのも、神が知ったうえで許可して、起きているのである。だからすべてを、神の意思のままに受け入れなければならない。

神の意の通りにならず、神に背く可能性があるのは、人間だけである。人間は自由意志をもち、神の命令に背き、罪を犯す。神は怒って、それを罰する。

完全な神は、なぜ神に背く可能性のある、不完全な人間を造ったのか。神は、人間と交流を持ちたかった。人間が自分から神のほうを向き、神を信仰するようになってほしかった。人間とこの世界を神が創造したのは、人間に対する神の愛である。それに応えて人間も神を愛することを、神は望んでいる――

と考えることができるが、これでは、神に主権があることにならないかもしれない。人間には自由意志などない。あるように思うのは、人間の錯覚である。人間が神を向き、神を信仰できるのも、神がそうさせているからで、神の恩恵である。誰の罪を罰し、誰を救うか、神は天地創造の初めから決めている。こう考える人びともいる。キリスト教の救済予定説である。

イスラム教はここまで極端ではない。人びとの生前の行ないや信仰にもとづいて、情状酌量を加えながら、アッラーが裁くことになっている。

神の主権が成り立つなら、地上のすべての出来事は、神の意思の現れである。偶然など、存在しない。

預言者

神だけが知る創造の神秘と世界の真実を、人間に伝えるのが、預言者である。預言者とは、神の声を聞くひとのこと。一神教に、不可欠の存在だ。

預言者は突然、神に選び出される。なりたくてなれるものではない。訓練も学問も必要ない。神のことばをそのまま人びとに伝えるのが、預言者の役目だ。

預言者は大勢いる。旧約聖書(創世記)によると、最初に神の声を聞いたのはノア。そのあとアブラハムも神の声を聞き、モーセも、サムエルもナタンも、イザヤもエレミヤもエゼキエルも、偉大な預言者として行動した。これら旧約聖書の預言者に加え、イスラム教は、新約聖書の洗礼者ヨハネ、マリアの子イエスも預言者だとする。そして、「最後で最大の預言者」ムハンマドが遣わされ、『クルアーン』が啓示されたと考える。

「最後で最大の預言者」は、イスラム教の重要な信仰告白だ。「最後」だから、ムハンマドより後に預言者はいない。『クルアーン』が書き換えられる心配がない。「最大」だから、『クルアーン』をこそ重視すべきである。そして、注意すべき点だが、「最後」だから、ムハンマドより前にアッラーの預言者がいたことになる。旧約の(ユダヤ教の)預言者、新約の(キリスト教の)預言者たちは、アッラーの預言者だから、ユダヤ教もキリスト教も存在してよいのだ。彼らは、古い預言に従っているだけだから、イスラム教に改宗しなくてよい。ただし、宗教税を払いなさい。イスラム教にはそもそも、宗教的寛容が内蔵されているのだ。キリスト教がむしろ、イスラム教や

ユダヤ教に不寛容である。このことは覚えておくといよい。

神との契約

預言者が伝えた神の言葉は、文字に書き留められて、聖典となる。

神はどのようなことを人間に伝えるかという点、自分が唯一の神であること、世界の支配者であること、人間は神を信仰すべきであること、具体的に守らなければならない規定の数々、そして、この命令に従わなければ滅ぼされること。ひと言でいうなら、神との「契約」である。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教はいずれも、神との契約にもとづいている。そこは共通だが、それぞれの契約のなかが異なっている。

神と人間の正しい関係を設定するのが、「契約」。宗教が、契約である。日本人の発想にない考え方だ。

契約であるからには、神と人間の双方を拘束する。人間は、偶像を崇めず、神だけを信仰しますと約束する。神は、神に従う人びとを保護してやる、と約束する。だが人間にとって、神との契約は、神からの命令のようなもの。それを守るのは神への義務なので、契約がそのま

ま宗教法になる。モーセの伝えた契約（モーセの律法）に従うユダヤ法。ムハンマドの伝えた契約にもとづくイスラム法。キリスト教だけは、これにあたる宗教法がない。一神教としては例外なのである。

神の民

預言者は、神との正しい関係に入るようにと、どういった人びとに呼びかけるのか。

神は最初、アブラハムに呼びかけた。アブラハムの子はイサク、その子はヤコブ。ヤコブの十二人の息子の子孫が、イスラエルの十二部族である。彼らは「ヤコブの家」「イスラエルの民」とよばれる。イスラエルは、ヤコブの別名。いまのユダヤ民族である。

十二部族のひとつユダ部族からダビデ王が生まれ、その子孫にイエスが生まれた。イエスは、ユダヤ人だけでなくすべての人びとの罪を背負って、十字架で死んだ。これが新しい契約となつて、すべての人類が救われる。こう考えるのが、キリスト教である。キリスト教は民族を超えている。

アブラハムにはイサクのほかにもう一人、腹違いの息

子イシマエルがいた。イシマエルは砂漠に逐われ、アラビア人の祖先になった。アラビア人のクライシュ族の一員に、ムハンマドが生まれた。ムハンマドは、民族に係なくすべての人類を救う、アッラーの啓示を受けた。この啓示に従う共同体を、ウンマという。

2 イスラム教とウンマ

聖典はルールブック

ユダヤ教 イスラム教はよく似ている。人びとの社会生活を律する宗教法が、そなわっているからだ。

ユダヤ教徒が従うのが、ユダヤ法。モーセの律法（モーセ五書）を法源とし、ミシュナ、タルムード（いずれも注釈）などを補助法源とする。

いっぽうイスラム教徒が従うのは、イスラム法。『クルアーン』を法源とし、ハディース（ムハンマドの言動の伝承）、イジュマ（法学者の一致した意見）、キヤース（三段論法）などを補助法源とする。これらを実生活に適用するのが、イスラム法学者の役割だ。

『クルアーン』は、野球のルールブックのようなもの

だと考えられる。草野球に、ルールブックはない。プロ野球には、ルールブックがある。紛争を予防し正しくゲームを進行させるためだ。アンパイアにあたるのが、法学者である。『クルアーン』はアラビア語だから、アラビア語がよくできて、ハディースなどにも詳しくなくてはならない。聖典は文字で書いてあるから、文字の読める知識人が社会のリーダーになる体制ができあがる。

安息日

ルールブックに何が書いてあるか。

まず、安息日。神は世界を六日で創造し、七日目に休んだ。それは土曜日なので、ユダヤ教徒は土曜日を安息日とする。イスラム教徒は、土曜日ではなく金曜日に休む。キリスト教（西方教会）は日曜日に礼拝を行なう。安息日（休日）で、その人の信仰がわかるのである。

イスラム教徒は一日五回、メッカの方向にむいて礼拝を行なうと決まっている。モスク（礼拝所）には、メッカの方角を示すキブラという目印がついている。

ラマダーン月の断食も、イスラム教の特色である。一カ月の間、昼間は食事を摂らず水も飲まない。飢えて苦

難にある同胞を思うためだという。日没後は食事をしてよい。かえってご馳走を食べすぎて太るひとがいる。

ちなみにイスラム暦は太陰暦で、一年がおおよそ三五四日なので、太陽暦とだんだんずれて、ラマダーン月も夏になったり冬になったりする。

食物規制

宗教法で忘れてはならないのが、食物規制である。食べてよい食材、食べてはならない（穢れた）食材が決まっている。ユダヤ教で食べてよい純正食品をカシエル（コシャー）、イスラム教ではハラール、という。こうした考え方は、日本人には欠けているので、注意が必要だ。

旧約聖書の申命記をみると、ブタやコウモリやラクダや、ひれと鱗のない水中生物など、食べてはいけない食材が並んでいる。イスラム教の食物規制も、ユダヤ教の場合と似ている。加えて、アルコールを摂ることができない。みりんを使う日本料理は、アルコールが入っているの、厳密に言うとなGだ。

なぜ食物規制のような、面倒な決まりがあるのか。食物規制があると、異教徒と食事がしにくくなる。友人に

もなれないし、結婚もできない。いきおい、信仰を共にする者同士が結婚し、つぎの世代にも、何十世代後でも信仰共同体を再生産できる。政府の支援がなくても、宗教を防衛できる仕組みだ。

服装規定

服装についても、帽子や髪形、ヒゲなど、決まりがある。イスラム教では、女性が髪や顔や肢体を露出しないよう、規制がある（法学派によって、厳しさの度合いが異なる）。イスラム教徒の女性のための水着（ブルキニ＝ブルカとビキニを合わせた語）を、フランスの海岸で着用してよい、論争になっている。

西側諸国の中ではフランスが、ライシテ（政教分離）の原則にもっともこだわっている。これはフランス革命にさかのぼる伝統で、旧体制のカトリック勢力を打倒した啓蒙思想家（実質的には無神論者）たちが、理性信仰を掲げ、キリスト教のしるしを公共の場から徹底して排除したので。イスラム教徒が学校にスカーフを被って通学するのもいけないと、外見で信仰が明らかになるのを禁じようとする。

アメリカは憲法で信教の自由を保障しているので、スカーフをしたイスラムの女性やキップ（頭にちょこんと載せるユダヤ教の帽子）をつけた男性は珍しくない。

利子の禁止

利子を取ることは、イスラム法では禁止である。

ユダヤ法でも禁止だが、それは同胞から取る場合。異教徒からなら利子を取ってもよかった。そのため、キリスト教徒を相手にした高利貸のビジネスが生まれ、ユダヤ人のイメージのステレオタイプとなった。

イスラム教は利子禁止の規定があるので、商業銀行をつけない。経済を近代化し資本主義を営むのが、困難になる。実際には複雑な操作を通じて、利子と同様の効果をうむような手続きが工夫されている。

法人は存在するのか

イスラム教でもうひとつ、重要なのは、法人が存在するということ考え方がないことである。

キリスト教徒も、法人実在説と法人擬制説に分かれて争った。法人は実在しないという説も有力だったという

ことだ。東インド会社が設立されたころから法人が存在するという考え方がだんだん広まり、資本主義経済では法人が存在するのは当たり前のことだ。

キリスト教には、教会というものがある。イエスをかたどった、信徒を手足とする有機体で、要するに法人である。教会をつくれとイエスが命じたというので、キリスト教徒は法人の考え方を受け入れやすい。

イスラム教は、法人なるものに懐疑的である。アッラーが法人を造ったとはどこにも書いてない。存在しないものを存在すると思えば、偶像崇拜ではないか。

教会がない代わりにムハンマドがいて、その後継者がカリフを名のった。カリフは職務であって、法人ではない。そのうちカリフもいなくなった。では誰が、イスラムを統治する正当な政府をつくれるのか。

政府は法人である。キリスト教は政府を正当化する手続き（教会による戴冠）や理論（王権神授説）をもっている。政府に反抗すると叛逆罪になる。悪逆な王は、教会が破門して退治することもできる。

イスラム世界では、すべての政権は、不法な存在になってしまふ。統治が順調なあいだはまだよいが、問題

が起こると、背教者を倒せ、をかけ声に叛乱が起こる。叛乱が成功すれば新しい政権ができるが、同じことの繰り返し。「アラブの春」を、民主化と勘違いしてはいけない。

シーア派とスンナ派

イスラームは人類全体を包み込む、単一の共同体（ウンマ）を形成するべきである。だが実際には、異教徒もいるし、ウンマもいくつにも分裂している。

いちばん大きな分裂は、シーア派とスンナ派（スンニー派ともいう）の分裂だ。シーア派は、ムハンマドのいとこで娘婿のアリーがムハンマドの後継者（イマーム）だとし、アリーが暗殺されたあと、十二人のイマームがそれを継いだとする。イランを中心に、イラクやイエメンやバハレーンにも広がっている。しかし少数派だ。多数派のスンナ派は、ムハンマドの後継者は、アブー・バクル↓ウマル↓ウスマーン↓アリー、の四人が正統カリフで、そのあとカリフ位はアリーのライバルであったムアウィア（ウマイヤ朝）の興したウマイヤ朝に継承されたとする。ちなみにカリフとは、神の使徒（ムハンマド）の代理人、の意味。

スンナ派はさらに、ハデースの違いにより、四大学派（ハナフィー派、シャフィー派、マリーク派、ハンバリー派）に分かれている。

IS（イスラム国）は、スンナ派の過激派であり、シーア派や、スンナ派の独裁政権と抗争している。

3 近代化とイスラーム

海の時代

キリスト教文明が近代化したのに、イスラム文明が立ち遅れているのはどうしてか。

さまざまな理由が考えられる。イスラム文明は、陸の時代に繁栄した。砂漠は通商の大動脈であり、中東を中心に四方に枝を伸ばすイスラム文明は、その果実を享受した。キリスト教文明は西のすみっこにあり、劣勢だった。ところが、大航海時代を境に、海の時代がやってきた。新大陸を支配下に収めたキリスト教文明は、科学と軍事技術を両輪に、産業化を順調に進めて行った。

哲学と法学

この時期、キリスト教文明の特徴は、理性が信仰を相対化し、凌駕して行ったことである。

キリスト教文明の中心は神学であり、哲学がそれを補助していた。スコラ哲学である。ところが神学と哲学が次第に分離し、哲学は神学(信仰)から独立して、啓蒙思想となった。啓蒙思想は、理性を指導原理とする。理性は自然を解明し、聖書に書いてあるのと異なった法則を発見した。そして、神の創造のわざを理解するのだから神の意思にかなうのだとして、その活動を正当化し、自然科学になった。

イスラム文明の中心は法学である。神学や哲学は、法学と一体化している。イスラム法学は、『クルアーン』の明文を理性によって解釈するもので、理性は神学とも法学とも矛盾しない。イスラム教は、キリスト教の三位一体のような不合理な信仰箇条を含まない。よって理性が、信仰と分離する契機がない。ゆえにイスラム文明には、ルネサンスも啓蒙思想もないのである。

自然法と人権

イスラム法は、『クルアーン』以下の明文のテキストにもとづいて、存在している。神の意思は、そこに書いてある通りで、明らかである。

キリスト教は神からの、イスラム法の場合のような明文の命令規定を持たない。新約聖書をもとに、複雑な論理操作で、人間の思考や行動の指針を導出しなければならない。神学が、この操作を担当した。

啓蒙思想は、スコラ哲学の自然法の考え方と宗教改革を踏まえて、次のように主張した。神は、世界を創造したのと同時に、人間やすべての自然が従うべき「神の法」を制定した。それは、神の言葉で書かれていて、人間の目には見えない。ただし理性を用いるならば、神の法の一部分を発見できる。それを「自然法」という。新約聖書のなかに明文で書かれていないが、代わりに自然法がある、というわけだ。

自然法を立法したのは神であるから、人間の制定する法(たとえば、国王の法)より上位にある。国王の法が自然法と矛盾するなら、国王の法は無効となる。自然法には、神に創造された人間に生まれながらの権利(自然権)が与

えられている、と書いてある。ゆえに、自然権（人権）を無視する法を、政府は制定することができない。自然法と人権の思想は、キリスト教文明に独特の考え方である。そして、キリスト教の政治哲学の基本原理となっている。イスラム法にないのは、この自然法の思想である。イスラム教では、理性が法学に組み込まれていて、理性単独で自然法を発見したりしないからだ。

自然権（人権）が存在するなら、それを保障するよう政府に命ずる「憲法」を、制定することができる。憲法を制定するのは人間だが、人権が存在させているのは神だから、政府にそれを守らせることができる。それを守るかぎり、政府は正当化できる。これが、キリスト教徒のやり方だ。

イスラム法は、神が制定しムハンマドが啓示したもので、特定の政府を正当化することができない。イスラム法に代わる憲法を、人間が制定することもできない。代表が議會を構成し、法を制定することもできない。つまり、イスラム教は、民主主義と調和できない。

部族社会

イスラム教は、法人を認めない。ゆえに、政府を正当化できない。そればかりではない。株式会社も、そのほかの法人も、存在を正当化するのがむずかしい。実際には存在していても、法学上、それを正しく扱うことができにくいのである。

では、正しく存在できるのはなにか。個々の人間。そして、個々人が血のつながりでまとまった集団だ。

こうして、法人が正当化できない結果、イスラム世界は部族制の伝統を色濃く残すことになる。なぜなら、正当化できる唯一の集団形成原理は、血縁（部族制）だからだ。この伝統は、近代化に逆行する、イスラム社会のひとつの傾向となっている。

終末と審判

アッラーは最後の審判の裁判官。イスラム教の終末観もキリスト教とよく似ている。判決は、救われて緑園に行くか、それとも永遠の業火で焼かれるか。救われるための条件は、信仰正しく、イスラム法を守って生活すること。マイナスがあっても善行でカバーできる、とする

点がキリスト教（特にプロテスタント）と異なる。死者は裁きの日にすべて復活する。この点も、キリスト教と同じである。

キリスト教と違うのは、天国（緑園）のすばらしい様子が具体的に、『クルアーン』に書いてあること。アッラーは人間が、地上でも天国でも、幸せに暮らせるように配慮している。これを、二重の幸福論という。

ジハード

イスラム共同体とその信仰を異教徒の攻撃から守るためのあらゆる努力を、ジハードという。これは軍事行動に限らない。ジハードで斃れた者は、最後の審判を飛び越してそのまま、天国に直行するとされる。斃れたその瞬間が、前倒しの最後の審判だと言ってもいい。このようなジハードを認める点がキリスト教と違っている。

過激なイスラム主義グループは、ジハードの戦士になれるよと、若者を勧誘する。でたためな口車なのだが、ジハードの観念そのものを否定はできない。『クルアーン』に書いてあるからだ。ゆえに対策がむずかしく、みな頭をいためている。

グローバル化とイスラーム

キリスト教徒が始めた産業革命と資本主義と帝国主義が世界を覆い、イスラム世界はあらかた植民地になってしまった。宗主国の立てた植民地政府は、専制的な政治を行なったが、イスラム世界の政権はもともとみな専制的だった。植民地の時代が終わり、列強が勝手にひいた境界線の通りに、独立することになった。イスラム共同体が国境に分断されること自体が、イスラームの原則に合致しない。ここからイスラム世界の、政治的混乱が始まっている。

アメリカの軍事力が世界の秩序を維持し、グローバル世界を支えている。中東はそのカギとなる地域だ。石油を産出するからである。

アメリカからみて中東は、日本がその昔、満洲を経営していたのと似ている点がある。サウジアラビアなど傀儡政権がいくつもあるうえ、シーア派、スンナ派、クルド族など多数のグループが入り乱れ、「五族協和」が課題となっている。親米政権と反米政権とゲリラとが、抗争を繰り返している。

否応なく世界の国々や民族が、単一の市場経済に巻き

込まれるのがグローバル化だ。特に、資本と技術と情報、すみやかに国境を越えるようになった。激しい競争のなかで、イスラム諸国は出遅れている。資本主義や民主主義の制度と、イスラム教が折り合わないためだ。このシステムは不当だ、先進国のせいだという不満が、鬱積している。

イスラームはもとも、宗教的寛容の土壌をもっていた。これをもう一步進めて、イスラム文明と世界のさまざまな文明が共存できる、ポスト・イスラムの枠組みを提案できるかどうか。イスラム法をやめてしまわなくてもよい。イスラム法をもっとゆるやかに守る人びと、そもそも守らない人びとと共存できる、枠組み。ユダヤ教徒は純正派から柔軟派、寛容リベラルまで、幅広い立場がある。キリスト教も啓蒙思想や理神論、フリーメイソン、ユニテリアンなど、ドグマ(教義)にとらわれないさまざまな立場を生んだ。イスラームも変わる番だ。

イスラム教には、教会がない。イスラム教徒を束ねる組織がない。そのため過激な分派が現れても、抑止する方法がないので、政府が強権的に取り締まるしかない。そこで反撥も起こる。こしばらくは、アルカイダ

やIS(イスラム国)のような、過激なグループが続出すると覚悟しなければならぬ。だが過激派に、未来があるわけでもない。そのことを理解する良識ある人びとが、イスラームと世界の調和をはかる、創造的な努力を続けることを期待したい。

橋爪 大三郎(はしづめ だいさぶろう)

一九四八年生まれ。社会学者。東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。一九八九〜二〇一三年、東京工業大学に勤務。東京工業大学名誉教授。主な著者に『世界がわかる宗教社会学入門』(ちくま文庫)、『教養としての聖書』『戦争の社会学』(ともに光文社新書)、共著に『ふしぎなキリスト教』(講談社現代新書)、『クルアーンを読む』(太田出版)、『ほんとうの法華経』(ちくま新書)、など。

15分で読むイスラーム・ブックガイド

出版社	ISBN (978)	書名	著者名	本体 価格	刊行
ちくま文庫	4480422279	世界がわかる宗教社会学入門	橋爪大三郎	780	2006
太田出版	4778314989	クルアーンを読む	中田考・橋爪大三郎	2000	2015
書肆心水	4906917389	カリフ制再興	中田考	1800	2015
ちくま学芸 文庫	4480091673	回教概論	大川周明	1000	2008
岩波文庫	4003318515	イスラーム文化	井筒俊彦	660	1991
東京大学出 版会	4130311137	イスラムの法	アブドル=ワッハーブ ハッラーフ	5400	1984
有斐閣	4641024946	概説イスラーム史	板垣雄三・佐藤次高	2000	1986
講談社	4062194488	〈世界史〉の哲学 イスラーム篇	大澤真幸	2000	2015

あの日から一年たって

鈴木 慎二（BOOKS隆文堂）

店舗規模が百五十坪の割に、棚の人文書や専門書の比率が高いこと、普段の選書作業や棚のつくり方は、気になる方が多いためか、文章にまとめたり、取材を受けたりしていたのだが、去年の六月からその作業に手間が入ることになった。

要因は、当店の主要取次だった栗田出版販売（当時）の民事再生。その発表があったのは、締め日二十五日の翌日の二十六日（おまけに金曜日）だったため、主要な版元さんの大半が、週明けの月曜日から出庫停止。数社の版元さんから私宛に「民事再生が出てしまったので出庫停止させていただきます」という電話を受けたことを思い出す。

幸い「栗田番線でも出庫します」と言ってくださった版元さんもおられたし、当店は社長の奔走のおかげで、大阪屋の共同番線及びそれが駄目な場合の仮番線を使うことが一週間程度で可能になったため、補充や注文に関しては若干時間がかかるが、出庫停止が解消された。

ただし返品時に問題が生じた。栗田出庫が可能な版元さんでも、返品時は了解書添付をお願いされたこと。もう一つは栗田出庫拒否の版元さんから大阪屋の共同番線もしくは仮番線に入れていただいた場合の返品先。共同番線もしくは仮番線でも、大阪屋に返品できれば、この問題は生

じなかったと、一年以上たった今は考えているが、返品窓口は当時、出版共同流通センターの栗田しかなかった。版元さんとは様々な手段でやりとりして、最終的に栗田と大阪屋の返品了解書を二枚作成し添付することで落ち着いた（大阪屋への返品了解書は、店独自で作成した）。

栗田出庫拒否でも出庫してくださった版元さんにも多大なご迷惑をかけたが、このシステムで苦勞させたのは、学生アルバイトの子たちだろう。事情を説明し、理解してくれていたとは思いますが、同内容で宛先の違う了解書を二つ作成する手間を考えれば、今年の七月末までは行なっていたから。統合後の新番線が決まった後、来月から了解書一枚でいいよと言ったときの、「やっつですな」と言ったアルバイトの子の返事は忘れられない。

こう書いていると、担当の筆者は返品了解書を作成しないのかと、お叱りを受けそうだが、もちろん時間があれば作成している。ただし量の多い場合や、返品時期が決まっているもの（フェアなど）はあらかじめ書籍が決まっているので、返品予定前の余裕があるときにアルバイトの子に頼むことが増えている。

了解書の作成が必須になったことで、取り入れたことがある。それは、自分の担当分野の書籍に関しては売り上げスリップに入荷日（平成〇年〇月〇日）の数字を鉛筆で記入すること。

民事再生が起ころ少し前から、在庫を持ちすぎてしまう分野なので、入荷日記入はしていたが、了解書作成時間を計算しなければいけないので、もっぱら返品時の目安として使用している。

売り上げスリップの管理といえれば必ず話題が上がる久禮書店のKさんのように、回転数の記入や、棚陳列、フェアのアイデアへ連動させるといったところまでは持って行けないが、まとめ買いをしたお客様の好みとか、どの棚から抜いたかの目安を付けやすい。平積みや面陳本の売り上

げを調べるときは、パソコンや端末を見る必要がないので、とても重宝している。

棚出しと返品作業の変更点はこんな感じだったが、この一年間はフェアの仕入でも問題は生じていた。ここ五年間は毎年開催していた十一社共催の四六判宣言フェア。搬入日を棚卸し後のいつにしようかと、担当の青土社・Eさんと調整をしていた際に起こった民事再生。民事再生が起こった際の栗田出庫停止は五社。棚卸し後の八月からの開催は、当時の状況を考えれば厳しいと思っていたが、Eさんの奔走で全版元の入荷時期もずれることなく、予定どおり二ヶ月間開催できた。本当にEさんには感謝しているが、売り上げで貢献できなかったのは悔いが残っている。

十月からは『平和の棚の会』フェアを開催した。これも民事再生前の六月から、担当だった彩流社(現アルファベータブックス)のKさんと開催時期を思案していた矢先だった。半数の版元さんが、栗田出庫拒否の状況下でも、Kさんの奔走で開催できた。開催期間中にKさんが、諸事情あって退社されてしまい、細かいやりとりはできなかったが、当時の政治状況もあってか、予想以上に本は動いていた(例を挙げれば山本義隆さんの『私の一九六〇年代』(金曜日))。

持ち込んでいただいたフェアもあった。築地書館の営業代行をされていたAさんより、フェアのお話をいただき、築地書館のSさんと選書して開催した。実施期間は短かったが、Aさん、Sさんとも予想より売れたことを喜んでくださったから、まずまずの成果を残せたのだらうか。

今年に入ると、栗田出庫拒否だった版元さんも容認していただいているし、大阪屋と栗田の統合以降、担当の人文書や専門書に関しては、入荷速度が大幅に改善されたが、その分の在庫調整という問題もまた生じている。

問題だけを挙げると、きりがないので、今年に入って開催した印象深いフェア三つを挙げさせ

ていただく。東京大学出版会の『東大VS京大』フェア、勁草書房『ネット炎上の研究』フェア、彩流社『フィギュール彩』六十点突破記念フェアである。

東京大学出版会のフェアは、ここ数年毎年開催させていただいているが、今年は懇意のSさん（前担当）が選書されたためか、予想以上の数字だった。東京大学出版会の当店での昨年の売上冊数の三分の一くらいをフェア開催期間中に販売することができた（過去のフェアは、リストの中から選書していたが、今年はリストと冊数は決まっていた）。

勁草書房の『ネット炎上の研究』のフェアは、紀伊國屋新宿南店で話題になった分析美学のフェアを担当されていたAさんとの初のフェアだった。フェアを開催されていた、新宿南店（当時、現東大生協駒場店）のTさんからAさんのお仕事振りは聞いていたが、実際のお仕事を目にして勉強させられることばかりだった。選書は著者二人がされていて、その中から十点程度を選書した。が、肝心の単行本はフェア開催時には動かせず、新書や文庫が売り上げを占める形になってしまった。フェア台を使う以上、単価の高い単行本を動かさないと駄目ですね、とAさんと後日会話やメールなどでやりとりしたのを覚えている。

彩流社の『フィギュール彩』フェアは、創刊十点を突破した際にも開催させていただき、今回が二度目。統一されたソフトカバーの判型を見たとき「選書の棚での展開がよさそうですね」と当時の担当Kさんに提案し、以降、選書で展開している。これほど早く刊行点数が六十点を突破するとは思わなかったが、テリー・イーグルトン、ジャン・ジオノなどを刊行するシリーズがあることを認識して欲しい。それぞれの分野の棚へ並べることも可能はず。六十冊突破で作成されたブックレットは版元営業さん数人が持ち帰っていた。



筆者近影

あれから一年。本当に版元営業さんに助けられてばかりだった。当店の営業担当の方も一回り以上若い方が多くなってきた。現場に立って仕事を続けている限りは、今まで自分が版元営業や他書店の方々から学んだ何かを伝えて、相互の触発をと願っている。

鈴木 慎二(すずき しんじ)

「ライブ・イン・ライブラリー」——考える、話す、伝え合う。また考える

成田 康子（札幌南高校図書館・学校司書）

札幌南高校図書館で生徒によるトークライブが開かれている。題して「ライブ・イン・ライブラリー」（略ライブ・イン・ライブ [Live in Lib.]）。学校行事や定期考査、模擬試験の日程の合間を縫っての放課後、生徒がそれぞれの興味・関心や思いをもとに発表する。時間は15分程度の短いものから30〜40分ほど。長いものでは2時間に及ぶものも。2014年からこれまで同窓生や大学の先生を含めると通算30回。主催は図書館（生徒会外局（希望制）で、司書がサポートする。

生徒の発表する第1回は、3年生男子による「複素数（数の終着点）。『Minamist』」（「ミナミスト…生徒会だより」）には次のように案内されている。

[Live in Lib.のお知らせ。場所…図書館、日時…7月16日（水）15…40〜17…00、持ち物…筆記用具。発表者の3年K君より。

——さて、今回のテーマは『複素数』ということですが…アレですよ、二乗したらマイナス1になるとかなんとかいう『虚数』を組み込んだ数字のことです。あ！？嫌いだと！？言っとくけど複素数もお前のこと嫌いだからな！？失礼。数Ⅲの『複素数平面』の分野で詳しくやる内容ではあるのですが、なんだかよお分からんまる森蘭丸ですよ。／そもそもの虚数、もとい複素数というものを考えたのか。それを考えることによって何が起るのか。方程式に解を与えられるようになる？それは『数の終着点』、複素数の魅力の

ほんの一部にすぎません。もっといろいろな魅力にあふれているのです——」

「複素数」数の終着点」

きっかけは、図書館のカウンターだった。数学の本を繰り返し借りる生徒がいて、ある日「数学って、……おもしろい？」と私は質問をした。すると、最初は遠慮がちに、しだいに熱く語りはじめる。そこで「図書館でみんなに今の話をしてくれないかな」と提案してみた。ちょうど手にしていたのが『複素数30講』志賀浩二著／朝倉書店。それじゃあ、と快く受けてくれたことから、生徒による発表がはじまった。

当日の図書館は、数式を列挙しやすいよう4枚のホワイトボードを並べ、入り口から近いイベント空間に参加者が実際に記述したり考えられるよう40余人分の机を配した。ライブは、自然数↓整数↓有理数↓実数↓複素数への数の流れと、複素数は数の終着点であること。複素数の演算のやり方と、複素数平面というアイデアの説明。複素数の演算と複素数平面上の動きを対応させてみ

る。複素数平面をひとつの球に対応させる「リーマン球面」の説明。終了予定は5時だったが終わらない。が満席の聴衆は誰一人として席を立とうとしない。ジョークに会場がわき、知的好奇心が駆り立てられている。にこにこしている生徒たち。加法定理を前列の一人に板書してもらう場面もあり、これは2年生が習う内容なので、1年生も参加していることを考慮して、とのこと。会場からは、「円円対応の原理(円が円に移るという原理)が成り立つのは、直感でとらえていたのとは違った。不思議だなー」という声もあがる。

最後に「さて次回は、関数についてやります」とK君。これには図書館員も私もびっくり。予想外ではあったが主催者としてはうれしいことである。お茶とクッキーでK君を囲んでの歓談が下校時間の7時まで続いた。

「Live in Lib.」を終えて、K君が図書館日より『四面書架』(図書館発行)に感想を寄せている。

「私と数学と本

ライブは、学年問わず思ったより人が来てくれました

た。1年生にはやや難しい話もありましたが、終わった後に『楽しかった』『理解できるようになりたい』と、つぎつぎと喜びの声がとどき、僕はうれしくてゾクゾクしました。このライブを機に複素数(ないしは数学全体)に興味を持ち、深く学ぼうと決心する人がいれば感無量。実は僕もまた数学の先生や数学好きの友人に感化されて数学を深く学びはじめたクチなのです。

誰かの心に『数学の灯火』をともすには『種火』が必要です。それは数学教師や友人、そして今回ライブをした僕でもあります。灯火はかくして繋がり、そしてその灯火をよりいっそう強めてくれるのが『本』です。今回のライブを聞いて数学に興味を持ったあなた、図書館の数学コーナーに行ってみましょう。

僕について言えば『数学ガール』という本を読んで一気に数学が好きになりました。たった一冊の本が強力な着火剤となりえます。もちろん、このことは数学以外にもあてはまります。自分のなかの“興味の灯火”をどんどん燃やしていきましよう。その過程で本は強力な働きかけをするはずですよ」

当日の参加者からは「学校で習う概念を工夫して、その一歩先、二歩先へと一気に世界を展開できるK先輩がすごいと思いました。数学を学ぶ者として目標になりました。数学のロマンを知った気がします」(1年女子)との感想が寄せられました。

「源氏物語で上げる 恋愛偏差値」

11月1日の“古典の日”にちなんでの催しを検討していたところに、『源氏物語』の登場人物の相関を全部言えるヤツがいる、と教えてくれる生徒がいた。同じ山岳部員の3年生、T君だという。後日来館した彼に図書局の生徒が趣旨を説明するが、発表を躊躇している。「ただ好きだけだから」と照れている。私は、作品のなかで誰が好きかと訊く。「僕は、浮舟がいいと思う、彼女は……」——おもしろい。じゃあ、その辺りの相関図はどうなっているの、と促す。書いて話すほどに乗っけて、周囲の局員もニコニコして聞き入っている。

〔Minamist〕から〕

「Live in Lib.のお知らせ／『源氏物語で上げる 恋愛偏差値』11月17日(月) 15…35…16…50 図書館にて 講師・T君(3年)／皆さん、古典の勉強は順調ですか？古典の成績がなかなか上がらないと悩んでいる人も多いんじゃないでしょうか。実は私も成績が思わしくなく、模試の結果が返ってくるたびにぜえぜえハァハァ言っています。そもそも、古典の成績とは、①学力偏差値 ②恋愛偏差値の二つから構成されていると言っても過言ではありません。そこで！今回はそんな恋愛偏差値をフルで使う『源氏物語』をとおして、そのキャラクターを紹介していくとともに、すぐに使える恋愛の技術を学んでいきましょう！大丈夫です。私の恋愛偏差値は40を下回っているのでビビる必要はありません。もちろん、皆さんのなかには実用的な古典のスキルを求めている人もいます。ご安心ください。そんな人のために『助動詞』や『古文読解のコツ』についても私の話せる限りで話していきます。理系文系にかかわらず、ぜひ図書館にお越しください」

ライブ当日。作者紫式部の話から始まり、「恋愛偏差値を上げるには『和泉式部日記』を読め！」と勧め、次に、そもそも恋愛偏差値とは何か、という核心に迫る。『源氏物語』の「雨夜の品定め」、ラストヒロイン浮舟について、夕顔の没するシーンを解説する。古典作品を読み解くヒントとなる知識を織り交ぜながら、品詞分解や古語についてもホワイトボードで説明。カジュアルな訳により、古文が苦手な人も親しみやすい。場面の紹介には『あさきゆめみし』(大和和紀著／講談社)のページを開く。千年前の話でも、三角関係や自らの存在価値に悩むなど現代に通じるところがあると語る。皆を引きつける語りとパフォーマンス。あちこちで笑い声があがる。「古典は勉強するものである以前に、読み、味わうものなんです」との感想も聞かれた。

『四面書架』に、「学ぶ古典、読む古典」と題して報告がある。

「T君への質問。

Q1 恋愛偏差値って何？／A たとえば、男の子が

女の子に告白します。すると女の子は「バカ」と言っどこかに行ってしまった。これを字面どおり受け取って「自分はバカなんだ」と思ってへこんでしまう人は恋愛偏差値が低い人です。

Q2 恋愛偏差値を上げるにはどうしたらいいの？／A 経験あるのみ！

Q3 初恋のエピソードを教えてください。／A 小6のとき、手はつないでけれど告白できず、そのまま終了。オレって昔からビビってばかり……

Q4 『源氏物語』の世界に生きていたとしたら、どんな役か。／A 好きな人を源氏にうばわれて苦悩の末に出家する役かな……（笑）

Q5 『源氏物語』のなかで好みのタイプは？／A 浮舟。平安貴族すべてに共通しているけどロングヘアが好き。NOと言えない性格が、うざいけど愛しい。

Q6 他におすすみたい古典作品は？／A 『枕草子』は今のイメージでいくと偏差値の高い女の子のブログ。女子目線がよく男性評を書いているので男子には参考になる。それから、いわゆる反戦文学としても読める『建礼門院右京大夫集』を。

Q7 恋愛偏差値が高い人、低い人にひとこと。／A 恋愛偏差値が高い君たち！ 俺にもちょっとくらいその技をわけてくれないじゃないか……（涙）恋愛偏差値が低いみんな！ いっしょにガンバロウじゃないか。みんな……恋しようぜ！！

「Live in Lib.」発表者のメッセージ

これまでの発表は、体験談あり、フィールドワークありと多彩である。一覧を表に示した。

発表者のメッセージを『Minamist』から一部紹介する。

□「『これからの「正義」の話しよう』 B. 札南図書館」1年女子

『これからの「正義」の話しよう いまを生き延びるための哲学』（マイケル・サンデル著・鬼澤忍訳／早川書房）をもとに読書会を開催します。／発表者1年Yさんから「皆さんに三つの質問です。①善悪や『正義』についての問題で、すべての人に共通する普遍

	通算	開催日	タイトル	発表者
生徒	16	2015.7.23	TED in SMH 『モノ』のインターネットのお話／海外で、医療に関わるということ／生物多様性について／高校時代に夢への一步をふみ出そう	3年男子／2年女子／3年男子／3年男子
卒業生	17	2015.8.25	義男のLive in Lib. (『義男の空』モデルが語る)	卒業生 (脳外科医)
生徒	18	2015.9.16	日本語と英語と、あと何を話すの？／君も目指せる！国際言語学オリンピック	2年女子／3年男子
生徒	19	2015.9.28	光速の世界～特殊相対性理論への招待～	3年男子
同窓会	20	2015.10.16	六華ワールドトーク「世界のどこでも働けるグローバル人財とは！～ある企業の歴史に見るグローバル企業への100年の道のり～」	同窓生
大学	21	2015.12.7	読書会『武士道』グローバルリーダーとは何か～新渡戸稲造『武士道』に学ぶ～	北海道大学大学院教授
生徒	22	2015.12.8	もじたび～見学旅行で出会った文字～	2年男子
生徒	23	2015.12.9	暗号ってなに？～数学的観点から暗号理論を見る～	2年男子
大学	24	2015.12.10	国際機関で5年間働いて	北海学園大学教授
生徒	25	2016.3.15	what's ビブリオバトル～全国高校ビブリオバトル2015に参加して～	2年女子
生徒	26	2016.3.16	私の海外研修～台湾編／黄金比／北方領土を考える～色丹島を訪れて～	2年女子／2年男子／2年女子
生徒	27	2016.4.25	「聞き書き甲子園」に参加して	3年女子
生徒	28	2016.7.19	あなたもハマる！書の世界	3年男子
生徒	29	2016.7.21	吹雪による視程障害判定装置の開発／言語をつくるということ～人工言語研究会2年半の挑戦～	3年男子／3年男子3名、女子1名
生徒	30	2016.9.12	合同式～散らかった数のお片付け～	2年男子

※卒業生：図書局の人選による／同窓生：同窓会の人選による（「六華」は同窓会の名称）

※第1、2回は、「図書館フォーラム」として開催

ライブ・イン・ライブラリー 発表一覧

	通算	開催日	タイトル	発表者
卒業生	1	2014.3.26	一冊の本ができるまで(図書館フォーラム～第1回・外岡秀俊さんとお話しよう～)	卒業生(作家・ジャーナリスト)
卒業生	2	2014.4.18	テツガクを読みたい!…けどなぁ	卒業生(定時制国語教師)
生徒	3	2014.7.16	複素数～数の終着点～	3年男子
卒業生	4	2014.7.24	わたしのアメリカ留学～1年目～	卒業生(元図書館長)
生徒	5	2014.9.26	解析～微分で関数を調べちゃお☆～	3年男子
生徒	6	2014.9.29	アジアの高校生55人で環境問題を考えるin OKINAWA／オリンピックで言語を解き明かす	3年男子／2年男子
生徒	7	2014.10.1	S兄弟、カンボジア・ミャンマーに行く	3年男子2名
生徒	8	2014.11.20	源氏物語で上げる 恋愛偏差値	3年男子
生徒	9	2014.12.15	“これからの「正義」の話をしよう” in 札南図書館(読書会)	1年女子
同窓会	10	2014.12.17	六華ワールドトーク「海外留学と今の私」	同窓生
生徒	11	2014.12.19	異国人になるということ	海外留学生・予定者8名
同窓会	12	2015.3.9	六華ワールドトーク「世界は仕事で変わる 仕事で世界を変える」(日本IBM)	同窓生
生徒	13	2015.4.22	「Wandering Malaysia & Singapore」(SSH科学技術人材育成重点枠プログラムでマレーシア・シンガポールに派遣された3年生5名による英語での環境に関するポスターセッション)	3年男子2名、3年女子3名
生徒	14	2015.7.21	TED (Technology, Education, Design) in SMH (Sapporo Minami High School) 学校林のススメ??／文字さんぽ～“樽”の上は“ソ”か“ハ”か?～／日本とドイツの若い人の政治参加と政治教育～選挙年齢引き下げにあたって～	3年男子／2年男子／2年女子(月刊『みすず』2016年7月号「高校図書館から～『わが闘争』、そして～」参照)
同窓会	15	2015.7.22	六華ワールドトーク「マレーシアから学ぶこと～マラヤ大学勤務を通して～」	同窓生

的・絶対的な真理は存在すると思いますか？ ②ある

ならば、それはどういふものですか？ ③皆さんも一緒に図書館で身近な問題の『正義』について議論しませんか？」

□「S兄弟、カンボジア・ミャンマーに行く」2年男子兄弟

弟…日本のNPO法人、ジャパンハートがミャンマーで活動している2つの施設、ドリームトレイン（子どもの養育施設）とワッチェ慈善病院を訪問して1週間、ボランティアをしてきました。ミャンマーは、経済発展の真ただ中であり、今後ますます日本とのつながりが深くなっていく国だと言われています。途上国での子どもの教育や、国際医療に関心がある人たちにも有意義な時間になると思います！

兄…北海道国際交流・協力総合センターが主催するスタディツアーに参加し、道内の高校生10人と1週間カンボジアを訪れました。現地で不発弾の爆破処理を見学したり、小学校で子どもたちと触れ合ったりしたなかで感じたこと、そして僕が見たカンボジアについてお話しします。

□「異国人になるということ」2年男子

去年の春、語学研修でイギリスへ行きました。いつか他の海外渡航経験者を交えて歓談したいと思っていました。それは単に記憶が薄れてしまう前に自分の経験を話したかったというだけでなく、月日が経った今になって初めてわかることもあり、それを共有したかったからです。

□「言語をつくるということ」人工言語2年半の挑戦（参加者の感想）

——ふつう高校生は、「あ、言語つくろう」とか、どうせなら既存のどの言語にも似せたくないとか、これは僕らも発音できない単語なんですけど（笑）とかにならない。じゃあ誰も発音できない単語は言葉と言えるか、言葉って何だ、という根源的な問いを投げかけてくれたという点においても、とても有意義なライブだった（『四面書架』より2年男子）

「Live in Lib.」への手がり

生徒が図書館に足を向ける機会が増えるよう、赴任直

後からいろいろな試みを行ってきた。朝から一日中開館することを初めに、館内レイアウトの変更、利用案内や啓発のための図書館オリエンテーションなど、生徒のニーズを引き出し、それに応える図書館、という双方方向の取り組みを検討。広報や図書館展示・行事などで図書館活動を活発にしていく。だが私のこれまでの勤務経験から見ても、本校は図書館を利用する生徒が多いとは言えない。早朝からの開館や放課後の時間延長には自習が主で、本を借りる生徒は少ない。赴任後は3倍、4倍と貸出冊数は伸びたが、年間一万冊の貸出しがあった以前勤務した高校の経験をどうにか生かせないか。

図書館資料を利用した授業は数えるほどしかない。生徒は部活動をいくつかかけ持つ傾向があり、塾・予備校へ通い、授業での課題(宿題)と多忙な毎日である。しばらくしてわかってきたのは、読む生徒は読んでいて、必要な本は自分で買うか、親が揃える家庭が少なからずあること。一方で受験勉強のために「(親から)読書を禁じられている」と話す生徒もいる。図書館の存在とは何か。図書館は生徒をどう支援できるか。生徒は何を求めているか。本校の実情に沿いながら、司書として図書館をど

う生かすかと考える日々が続いた。

図書館の学校祭の取り組みは赴任当初から始まった。ここ2、3年は、授業では扱わない「日本文学史」の教科書をもとに企画されている(月刊『みすず』2015年6月号「高校図書館から——『日本文学史』をめぐる——」参照)。試行錯誤の末、パネル展示に向けて局員間での「中間発表」の時間を設けた。テーマ設定の理由、わかったこと、これから調べていくことを説明する。質問を受け徐々に発表内容がはつきりしてくる。互いに意見を交わすことが、それぞれの考える意欲につながっていく。個々でありながら、チームとなる。この一連の過程もライブ・イン・ライブ展開のもととなった。

一方、私は図書館での講演会開催を思案していた。人選や予算の折り合い、その規模や日程の点が難しく実現には至っていなかった。友人を介して本校の卒業生で作家・ジャーナリストの外岡秀俊さんに会合でお会いした際、講演をご快諾いただいた。2014年3月、『カノン』(河出書房新社)刊行後の中原清一郎(外岡秀俊)さんをお招きして、第一回図書館フォーラム「一冊の本ができ

るまで」の講演が行われる（これを通算 第1回目の「Live in Lib」とする）。図書館員は「外岡さんと話そう」と呼びかけ、準備を進めた。

講演後の図書館員の感想『四面書架』より

「……講演では、たくさんの、私たちにとって新しいことを知りました。外岡さんは、たくさんの貴重な資料を使いながら、新聞のことや本を書くことをとてもわかりやすく伝えてくださいました。／さて今回の講演の終わったあと、人々がどうしたのかというのが今回の問題なのです。会場となった図書館には、外岡さんと数人の先生方と、取材の方と、司書の先生と、数人の図書館員、そして講演を聴きに來ていた生徒たちがいました。大人たちは大人たちの仕事をしているようでした。それで、生徒たちは用意してあったお菓子をつまんでお茶を飲んで、立ち話をしていました。展示してあった外岡さんの著書を読んだり、パネルを見たり、講演で外岡さんが挙げた本の話をしたりと、先生方も加わりながら、時間にして数十分はほとんどの人が、その場に残っていました。外岡さんと直接話し

こんでいる人もいました。本を借りていく人もいました。／講演で得たものは知識だけではなく、そういった図書館のかたちでした。別にふだん静まり返っているわけではないのですが、ああこういう活気はなかなか素晴らしいものでした。生徒たちも図書館も刺激を受けたようでした」

生徒による気づきは、私にとっての再確認となる。お茶の用意は、以前研修したフィンランドの図書館でもてなしを思い出していること。歓談のひとときがうれしく、その場を共有している満足感を覚えたものだった。これも、生徒自身が望む「場としての図書館」を作り出すきっかけとなった。

「Live in Lib.」の広がり、深まり

図書館という場所で、生徒自身が生徒の前で発表する——この形式がいいのでは、とあれこれ考えていた。話す材料は潜在的にあるという予想があった。長期休みを利用しての海外研修や短期留学をする生徒が少なから

札幌南高校図書部
2015/4/7・9・11

広がる 深まる LIVE IN LIB.

Live in Lib. (ライブ・イン・ライブラリー)は図書部がゲストを招きして行う様々なイベントのことです。以下ではこれまでの生徒の発表いくつかを紹介すると共に、Live in Lib.の魅力をお伝えします！

教員に関する発表
「僕が先生になりたい理由」をテーマに、先生の仕事や魅力について発表しました。

読書感想文発表
「読書の楽しさ」をテーマに、読書がもたらす価値について発表しました。

読書対決
「読書の楽しさ」をテーマに、読書がもたらす価値について発表しました。

読書の楽しさ
「読書の楽しさ」をテーマに、読書がもたらす価値について発表しました。

読書の楽しさ
「読書の楽しさ」をテーマに、読書がもたらす価値について発表しました。

読書の楽しさ
「読書の楽しさ」をテーマに、読書がもたらす価値について発表しました。

読書の楽しさ
「読書の楽しさ」をテーマに、読書がもたらす価値について発表しました。

読書の楽しさ
「読書の楽しさ」をテーマに、読書がもたらす価値について発表しました。

札幌南高校図書部の行う「Live in Lib.」はこんなイベントです。

誰がやるの？	なぜやるの？
※発表者は南高の生徒 (ただし、保護者もOK) ※参加者は南高の生徒 (先生もOK) ※等身大の質問や意見を交換できるイベント！	南高には自分のアイディアを発信したい人、またそのような話を聞きたい人がたくさんいます。その両者の願いを満す場が、Live in Lib.です。生徒同士で意見を共有することで、未知の世界に拓ける喜びを感じることが出来ます。
いつ、どこでやるの？ ※放課後、会場は南高の図書部 ※自分の考えを話したいという生徒募集 ※図書部員や生徒会役員で生徒に案内します ※実費なし！当日どんな展開になるのか誰にもわかりません、まさにLiveです！	これからLive in Lib.を通じて、私たちの思考を広げ、深めていきたいです。

ずいぶのだから、情報の伝達さらに共有ができないかとも思っていた。ある特定の分野に詳しい生徒や、哲学的な問いを好む生徒がいること、南高生気質なるものの存在……図書局での学校祭・中間発表の盛り上がりで当日の参加者からの質問に応えての交流からも、さらに、自由な発想から伸び伸びと現時点での持論を展開してみて

ほしい、と想像した。生徒の活動として図書局が主催することにも意義があると思われた。

図書局員が年度末の生徒会誌に「Live in Lib.」を紹介している。

「ここでもしか聞けないような深い話、初めて耳にする話など、聞ける話はさまざまです。疑問をもつ人がいるかもしれない。なぜ、静かな場所であるはずの図書館でトークライブをするのか。その疑問にはこのように答えます。「図書館だからこそです」。図書館とは、人と本がつながる場所。本には、多くの人の意志が詰まっています。そして、ライブは人と人とがつながるもの。ライブは、その瞬間の参加者の生の声を聴くことができます。何がおこるかわからない。どんな反応が返ってくるかわからない。Live in Lib.にはこんなドキドキがたくさん詰まっているのです。図書館とライブは人と人との架け橋になるのです。」

現在、第1回の大人による講演から数えると、今年中に34回を迎える予定だ。評判が広がり、本校同窓会から卒業生による「ワールドトーク」の定期的な開催依頼や、地元大学からの開催要請も受けている。参加するのは自由、来たい人が集まってくるという催しのせいかな、日程のタイミングがうまくいかなかったときは参加者が10名ほどの場合もある。

図書館という場の可能性を模索し進めてきたこの企画「Live in Lib.」が一年を過ぎた頃には、その一環として「TED in SMH」を提案する図書局員が現れる。彼は「何かを考える上で、話すことと聞くことは重要なことだ」と思う。自分の考えを話すことで、頭のなかで無秩序に展開されていた考えが整理される。他の人の考えを聞くことで、自分の考えと比較し、よりよい考えを再構築することができる。「話すこと」と「聞くこと」は、互いに絡まりあいながら「考えること」と昇華されてゆく。札幌生の考えるという行為に寄与したいと思い、今回「TED in SMH」(Technology, Education, Design in Sapporo Minami High School)というイベントを企画した。互いの考えを交換して、自分たちの思考の幅を広げていく。そ

のような場合は、意外と私たちには与えられていないのではないだろうか」と表明する。テレビ放映の『TED』や関連書籍を参考に、札幌南高版としてもっと気軽に、短い時間でもいいから発言してみよう、という意志がある。

在校生の発表リビーターがいると同時に、大学生になつてからもライブをしたいと連絡がくる。そのひとりに理由を訊ねると、「自分の知っているおもしろいことを伝えて、聴衆の興味の幅を広げたいから。先生だけでなく生徒も何か秀でたもの、何か珍しい経験を有しているものです。そういったものを活発に共有することで、互いに影響し合えると思います。生徒やOBが何かを教え合うということに興味があると思うし、先生より関係が近く話しやすい点もあると思う。ライブの途中に受験時代の話や大学の話などもしたい。特に浪人の話は、高校在学中はなかなか耳にする機会がないものです」。

「Live in Lib.」は、発表者個人に対応する図書館ならではの取り組みであると同時に、受け取る側も含めて、その場で終わりになるものではない。同年齢、あるいは

先輩からの、新しい知識や価値を見出す提起から、なぜなのかと問いなおすきっかけを得る。何を理解しているか、何ができるか、それをどう使うか、生徒どうしが協働で探求する場がつくり出される。しかもそれが、人間の記憶を備えた図書館で繰り広げられる……。これはおそらく、いま加速度的に大きな関心事になりつつある「アクティブ・ラーニング」が、教室から図書館へ向かうケースではなく、図書館で自然に芽ばえ、盛り上がり、生徒たちが実感として体得していく、ひとつの形なのかもしれないと思う。3年間で入れ替わっていく生徒に、この機会を絶やさないよう、今後とも継承され発展していくよう努めたい。

成田 康子（なりた やすこ）

1955年生まれ。学校司書の経験30余年。札幌月寒高等学校、大麻高等学校を経て、2010年から札幌南高等学校在職。前北海道高等学校文化連盟図書専門部事務局長。著書『みんなでつくろう学校図書館』（岩波ジュニア新書、2012）、『高校図書館——生徒がつくる、司書がはぐくむ』（みすず書房、2013）。共著に、石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究会『パスファインダーを作ろう——情報を探す道しるべ』（2005）、全国学校図書館協議会編『人とメディアをつなぐ学校司書のしごと』（2006）、全国学校図書館協議会・北欧学校図書館研究視察団編『北欧に見る学校図書館の活用』（2007、いずれも全国学校図書館協議会刊行）。

『日本近代の歴史』（全6巻）——ぼくらの「日本近代史」なんだぜ

永田 伸（吉川弘文館編集部）

日本史の大転換Ⅱ明治維新

吉川弘文館では、古代から近世まで日本史の通史のシリーズをすでに手掛けており、そのラストを飾るのが、今回ご紹介する『日本近代の歴史』（全6巻）である。

このシリーズの特徴は、高校生がよむ参考書に書かれている用語をベースにオーソドックスに政治史の流れを追っていることにある。昨今、たくさんの近代史の概説書が出版されているが、研究が多様化しているので、王道の政治史を軸に書かれたものというのは意外に少ない。これに不満を持っていた読者には、まさにうってつけのシリーズといえるだろう。というわけで、本文では初学

者向けに、なるべく低い目線から紹介し、近代史を理解するうえでの「導線」となることを目指したいと思う。

ただ、読者もご存じのとおり、明治維新自体が、アメリカからのペリー来航という外圧が契機となっていて、当然、外交がキーワードとなってくるのは間違いない。当時の明治政府の最大の目標は、不平等条約の撤廃にあった。であるから、いわゆる維新の三傑、木戸孝允、西郷隆盛、大久保利通を中心にどう、議会制度を導入し、西欧列強に日本の近代化を示していくべきか苦悩することになる。

ただ、幕藩制から近代化への道は、決して平坦なものではなかった。何しろ、戊辰戦争の勝者である明治政府の母体は、薩摩藩と長州藩の志士たちであり、もとは藩

の家臣たちであった。とくに、大久保の父親は、琉球館付役という下級の役職についていた人物である。幼なじみであった西郷の影響もあっただろうが、日本を西欧にならぶ国家にしていきたい、さらに、できるだけ身分差を廃した社会を実現していきたいという思いが人一倍強かったであろう。

ある時代にその人物が、どれだけ強い影響を及ぼしたか、客観的に比べるのは非常にむずかしいが、ひとつ指標になるものに、文書の発給量がある。実は、この量において、明治以降では、大久保利通と伊藤博文が突出しているという説がある。それだけ、彼らが頻繁に要職に就く人物や機関に積極的に働きかけをしていたということであろう。

では、この明治維新が、単なる西欧の議会制度の模倣に終始しているかと思えば、実はそうではない。太政官のもととの六省（民部、大蔵、兵部、刑部、宮内、外務）という名称からわかるとおり、古代に中国から導入された律令制度の用語を踏襲しているのだ。そして、大蔵省、外務省などの官僚制度を基本に据え、各省庁が管轄を持つことにより、法律を整備していくことになる。

この官僚制度に大きく立ちはだかったのが、租税制度である。加賀藩の石高が百万とよくいったように当時の徴税権は、各藩の藩主が持っていた。大久保にとって改革すべきは、当然島津藩主であった島津久光（島津家）が持っていた最大の権利であったのである。この徴税権を自分の雇い主から奪取し、大蔵省の管理に統一しようというのだから、版籍奉還と廃藩置県の意味がどれだけ重要であったか推察できよう。

島津久光には、ここでも有名なエピソードがある。よう



やく実現した廃藩置県の発表の後に、久光はいきどおつて、自邸で花火をあげて鬱ぶんをはらしたといわれる。自身がうちあげた倒幕という花火が闇に消えていく姿は、彼の目に虚しく映ったであろう。

謳われないヒーローについて

唐突だが、アメリカでは、「アンサンング・ヒーロー (unsung hero) 』謳われないヒーロー」という言葉がよく使われるという。僕は、初めてこの言葉を聞いたとき、かなりの感動を覚えた。実は、この言葉を知ったのは、ベストセラー『生物と無生物のあいだ』(福岡伸一、講談社新書)という本である。

この本は最新の生物学の成果をわかりやすく説いたものだ。特に、ワトソンとクリックという若き研究者がDNAの二重らせん構造を解明し、ノーベル賞を受賞する過程を描いている。彼らのオリジナルと思われるがちなこの発見に、実は大きな足跡を残し、今一歩まで近づきながらも、ノーベル賞を逃した三名の研究者がいた。福岡氏は彼らのことを「アンサンング・ヒーロー」とよぶ。

生涯を研究に捧げながらも歴史の主役として名前を残せなかった英雄たちを評価しようという思いに、僕は胸がぐっときてしまう。

さて話を明治維新に戻すと、憲政をどのようにするか、まだまだ大きな振り幅があった時代であった。維新に大きな貢献をしたのが三傑(大久保利通、西郷隆盛、木戸孝允)だとすると、彼らの下で具体的な草案作りに奔走した維新官僚たちは、まさに「謳われないヒーロー」と呼べるのではないか。

旧幕府時代大目付として主戦論を唱えていた、旧幕臣、加藤弘之はまさに維新の屋台骨を支えた人物といえる。煩雑な法律論は、ここでは避けるが、その骨子は、立憲君主制における君主権を制約しようとしたことである。現在では、一般化している、国権、権利、公権・私権などという翻訳語を用いたのも加藤であり、維新史において非常に大きな貢献をした。

さらに、加藤弘之は、盟友の神田孝平らとともにさらに大きな国制改革に取り組んでいく。課税方法や、実名の使用(通称の廃止)など、さまざまなことが提案されていた。そして、ここでの一番の問題は、封建制度の大

本である、身分制度の解体である。

政府首脳のなかには、維新官僚たちのねらいをいち早く読み取った人物がいた。岩倉具視である。岩倉は、明治三年、これらの改革を太政官（内閣）へ提出し、政府首脳部へ大きな影響を与えていくのである。

維新の原動力は、柔軟な発想を持った官僚たちのアイデアとその意味を理解し、具現化していく政治家たちとの協同作業であった。当時の官僚たちの改革への強い信念を思うと、驚きを禁じえない。

しかしここで、維新主役であったの三傑の最期についてふれておこう。大久保利通は暗殺され、西郷は西南戦争で自決、木戸も西南戦争中四五歳の若さで病没している。いずれも悲惨な結末といえるだろう。一九世紀を、暴力革命の時代とよぶ研究者もいるが、日本ではテロリズムが横行し、民主主義が定着していくには、まだまだ多くの犠牲と言論の蓄積が必要とされたのである。

総力戦は何をもたらしたか

誌面の都合から、現代へと直接続く第六巻について述

べたい。第六巻のタイトルが『総力戦のなかの日本政治』であるが、この巻には大きな問題性が秘められている。

最近、自衛隊の海外派遣が合憲とされるなど、アジア・太平洋戦争以前の日本へ、回帰しようという動きが見られる。これは、中国の海洋進出や、日米同盟の深化により防衛システムを協同で使用してかなければならぬ（いきたい？）動きに対応してのものだろう。

軍事評論家の前田哲男氏は、これらの流れの原因のひとつに戦争の残酷さを知った世代が、亡くなりはじめたことをあげていた。例をあげよう。一九八五年生まれの若手社会学者の古市憲寿氏は、ある週刊誌の連載で「安保法制で、強制的に軍に入れさせられる心配はまずない。……総力戦は起きず、戦争は局地化しているから小さな戦争しかおきない」と述べていた。

媒体が、『Oggi』という女性誌であるためか、読者を安心させようとしているのだろうか。僕は、この発言には「やや軽いな」という感想を持たざるをえなかった。日本経済が長い不況に入っている今、自衛隊に入らざるをえない若者に貧困層が含まれるだろうことは容易に想

像できるし、たとえ実際の戦闘に動員されるのが数十人規模であるにしても、核兵器やミサイルなど大規模破壊兵器を多くの国家が持っている以上、戦闘のはじまりが数万人規模の死者につながる可能性が充分ある……。

えーと、安保法制にどんな話がそれていつてしまったので、総力戦に話をもどそう(汗)。ここで、僕は古市氏が「総力戦」とわざわざ表現していることに注目してみたい。これは、「通常の戦争」が志願された兵士同士によって、敵国と殺し合うことに対し、「総力戦」とは、兵器の製造や補給の調達に銃後の女性、子ども、老人までもがかり出されることを指した用語である。西欧では毒ガスや機関銃、戦車などが大量導入された第一次世界大戦にはじまる。

この総力戦が、はじまってしまうと、いったいどのようなことが起きるだろう。いかに効率的に兵器を製造し、戦線に補給するかが、社会自体の最大の目標となってしまうのである。

当然、戦争に反対しようとするものを弾圧し、病人など社会的な弱者は蔑視されることになる。最近記憶に残った例だと、ニッカウキスキーの創業者竹鶴政孝の生

涯を扱った『マッサン』というNHKのドラマが記憶に新しい。竹鶴の妻は、スコットランド出身のリタであるが、当然金髪で敵国人の姿をしているリタは、自らの従業員の女性から、軍に密告され、収用されそうになるという場面があった。日本語を話し、長い間地域に暮らしたリタでさえ、戦時という非常時にはこのような危険にさらされたのだ。

以前、前出の前田哲男氏に、「アメリカに現在、反戦運動はあるのですか？」という質問をしたことがある。答えは「ありません。アメリカは常に戦時で、兵士の家族のことを考えると反戦運動というのは、国家を揺るがしかねない事態なのです」という返答だった。

総力戦には、国民全員が戦争に動員されるという側面もあるのだが、国家のシステムそのものが変えられてしまう側面もある。これが、一番恐ろしいことである。現在の保険制度や、源泉徴収による税制は、戦時に起源があり、ある意味非常に効率的な社会を生み出した。これは、日本の高度成長期を支えた側面もあるが、一人の市民として、自立した国民を生み出したかどうかは怪しい。

〔シリーズ構成〕

- ①維新と開化 奥田晴樹著
- ②「主権国家」成立の内と外 大日方純夫著
- ③日清・日露戦争と帝国日本 飯塚一幸著



- ④国際化時代「大正日本」 櫻井良樹著
- ⑤戦争とファシズムの時代へ 河島 真著
- ⑥総力戦のなかの日本政治 源川真希著

かなり特殊な例かもしれないが、本田技研の創業者本田宗一郎は、社員の獨創性を引き出す獨特な経営手法で、かの名バイク、スーパーカブや、獨特なデザインの小型車両シビックを生み出した。高度成長期、軍国主義から発想の転換を目指して、「人にどうしたら意欲的に働いてもらえるか」をモットーに社員育成にはげんだ。幹部社員が、行き過ぎたマニュアル化や合理化を唱える

と、「会社のなかで一番大切なのは、人間一人一人の特性が評価されることだ」と反対し、「ああ、まだ戦争は終わっていないのだな」と嘆いたという。

企業社会の発展の仕方を分析し、戦中と戦後は連続しているとは唱える研究者もいるが、戦中がどのようなプロセスで作られたか把握することがやはり重要だ。そういう意味で、「歴史は必ず誰かによって作り出されたものである」という事実を胸にとどめながら近代史に向かいあいたい、そして考え続けて欲しいというのが僕の願いである。

最後に、この文章のタイトルが敬愛する高橋源一郎氏の『ぼくらの民主主義なんだぜ』（朝日新書）を拝借したものであることを述べておきたい。民主主義も議会制度も、百数十年前、見よう見まねで試行錯誤しながら作られた。だから、何かの原因で簡単に変えられてしまうものなのである。高橋氏くらい低い目線で近代史についてもう一度、考えてみようではないか。

永田伸（ながた しん）

2016年研修旅行報告

富山・高岡・金沢・福井

販売企画委員会 片桐 幹夫(晶文社)

● 期日 2016年10月19日(水)～21日(金)

● 訪問先

【富山】 清明堂マリエ店、文苑堂書店富山豊田店、紀伊國屋書店富山店、BOOKSなかだ掛尾本店、富山大学生協書籍部五福店

【高岡】 喜久屋書店高岡店

【金沢】 紀伊國屋書店金沢営業部、金沢ビーンズ明文堂書店、金澤文苑堂示野本店、金沢海みらい図書館、うつのみや金沢香林坊店、紀伊國屋書店金沢大和店、西田幾多郎記念哲学館

【福井】 永平寺、SuperKaBoS新二の宮店、紀伊國屋書店福井店、勝木書店本店

二〇一六年秋の人文会研修旅行は、東北と北陸とどちらを回るかで競り合ったが、最終的に、昨年の北陸新幹線開通から多くの観光客を集める北陸地域に決まった。まず、富山・高岡の書店・大学生協を訪問。翌日、金沢にて書店・営業所・図書館および西田幾多郎記念哲学館を訪問。三日目の最終日は永平寺を見学し、その後市内の書店を巡見する行程となった。秋の研修旅行としては二〇〇一年以来、一五年ぶりである。

参加者は全会員社一九名に加え、販売会社(大阪屋栗田・トーハン・日販)三名に同行いただき、総勢二二名となった。以下、この三日間の研修旅行についてご報告したい。

一〇月一九日(水)

東京駅八時二〇分、やや早めの集合だが無事に定刻までに全員そろい、新幹線「かがやき」五〇五号に乗車。雲もあるが、おおむね秋晴れとなったこの日は、秋の行

楽シーズンでもあり、大宮駅以降の乗車率は一〇〇パーセント、北陸地方の人気を感じる。軽井沢周辺の美しい紅葉を眺めながら二時間一五分で定刻通りに富山駅に到着。新築の富山駅を出て、最初の訪問先は駅に隣接する商業施設五階の清明堂マリエ店（売場面積一二〇坪。以下同）で大阪屋栗田の池上貴文さんと合流。同店は駅中の小規模店舗だが、松井重樹店長が専門書も細かく目配りしており、堅調な売上。その後、早めの昼食（加賀料理）、新鮮なお刺身や出汁の美味しさに舌鼓。

昼食を終え、これから三日間お世話になるバスに乗車。一五分ほど北上し、二軒目の文苑堂書店富山豊田店（六三五坪）を訪問、店長の北村俊郎さん、MDの辻井直樹さん、人文担当の一杉亜津子さんに迎えていただく。同店は昨年九月一七日にオープン。人文会提案の良好書展開や独自のフェア選書にも、同店の今後のポテンシャルを感じた。

バスで二〇分ほど南下し、総曲輪の中心部・大和デパートの中に位置する紀伊國屋書店富山店（四三〇坪）へ。予定時間より三〇分ほど前に到着したにもかかわらず、花村成行店長代理に丁寧にご案内いただき、安定感のあ

る品揃えに好感。小作昌司店長、人文書ご担当の須藤さん、竹村さんには店頭でお目にかかることができずご無礼した。さらに一〇分ほど南下し北陸自動車道近くのBOOKSなかだ掛尾本店（一九〇坪）を訪問。数年前に人文書の棚が店内の奥から中心部に移動。新刊平台には一般書の話題書と共に人文会各社の新刊も陳列され、担当者の深い内容理解を感じる。澤田健太郎主任店長と斉藤兼子店長にご挨拶する。その後、二〇分ほど北上、富山大学生協書籍部五福店を訪問。國見伸行専務理事にお迎えいただく。研修で不在の土田正明店長、人文ご担当の大山晶世さんにはお目にかかれなかった。

富山から西に向い高岡へ、初日最後の訪問先、喜久屋書店高岡店（五四五坪）を訪問。新高岡駅至近、イオンモールの中に位置する。主なお客様はファミリー層だが、学校関係者もよく利用されることで、教育書が充実していた。奥井将店長にご対応いただく。人文書ご担当の江尻百恵さんはお休みのため、お目にかかれなかった。時間短縮のためバスと別れ、新高岡駅から新幹線で金沢駅へ向かう。

金沢では金沢市内の書店ご担当者様、外商ご担当社様、

トーハン北陸支店様、日販北陸支店様と共に懇親会を行い、金沢の市場状況についてのお話を拝聴して、一日目が終了した。

一〇月二〇日(木)

二日目は金沢市内の書店と金沢海みらい図書館、西田幾多郎記念哲学館を視察し、本日の宿、山代温泉に向かう行程となる。本日もやや雲があるがおおむね晴れ、日中は日射しがまぶしく暑さを感じるほどの陽気となる。

八時二〇分、金沢のホテルから徒歩で紀伊國屋書店金沢営業部へ。館脇盛郎部長と川口諒太郎さんに金沢営業部の現況をご説明いただく。人文会として半年に一度程度の大学向けカタログ作成など、販売施策のヒントをいただいた。次に、金沢県庁に近い金沢ビーンズ明文堂書店(二二六九坪)を訪問。店名の「ビーンズ」とは文字通り「豆」を意味していて外観そのものが豆の形をしている。このユニークな建築は金沢の一つの名所となっており、お客様は小松、能登、富山、福井から来店されることが。中村和志副店長にご対応いただいた。

次に、バスで西へ一五分ほどの金澤文苑堂示野本店



金沢海みらい図書館

(八八〇坪)を訪問、吉川嘉久さんにお迎えいただく。店内は展示書籍量も多いが、レジ前にはお菓子や清涼飲料さらに充実した化粧品コーナーが配置されている。担当の吉川さんは専門書の充実に意欲を示されていた。

昼食後、次の目的地、金沢海みらい図書館を訪問。職員の酒尾さゆりさんが概要を説明のうえ館内を案内してくださった。五年前に開館したこの図書館は蔵書二六万冊、来館者は平日で一五〇〇〇〜二〇〇〇人、休日で二〇〇〇〜三〇〇〇人とのこと。児童書コーナーや地域情報フロア(郷土本、日本海に関する本、地元の物作りに関する本)なども興味深かったが、館内三階から吹き抜けて俯瞰できる二階開架書庫フロアの未来都市的な景観は美しく、研修旅行参加者の多くが足を止めていた。また、平日の午後にもかかわらず多くの利用者が入館していた。

その後、金沢の中心部、香林坊の香林坊東急スクエア内の、うつのみや金沢香林坊店(三九〇坪)を訪問。大田伸一店長と人文書担当の中橋俊志さんにお迎えいただく。地下二階の全フロアを使用し、書籍・カフェ・文具・雑貨といった構成。本年一〇月二八日に地下一階に東急ハンズがオープン、さらなる集客が期待できるとのこと。

人文書近くにも大きなフェア台があるので、様々なフェア企画展開を期待したい。道を挟んで向かい合う大和デパート七階にある紀伊國屋書店金沢大和店(二一坪)を訪問。高級老舗百貨店のインショップなのでメインの客層は五〇代以上の方とのこと。人文書の什器は平三面棚四段というオーソドックスな形状で、メインの客層にマッチしたものと感じた。人文担当の中田理恵さんにご対応いただく。

バスで四〇分ほど北上し、かほく市にある西田幾多郎記念哲学館を訪問。館長の浅見洋先生、山名田沙智子さん、井上智恵子さん、中嶋優太さんにお出迎えいただき、一点一点の展示品を丁寧にご説明いただいた。展示構成は哲学に縁遠い人でも興味を持ってもらえるよう「哲学へのいざない」からはじまり、西田の遺品、原稿、書簡などが陳列された「西田幾多郎の世界」へ。ここでは西田をはじめ鈴木大拙の肉声も聞くことができ、活字からは伝わりにくい西田の力強さと誠実な話しぶりを体感。最後は、うたを詠み、書をものした西田の「書」のコーナーで締めくくられている。興味深い展示品に加えて、安藤忠雄設計による建物そのものもユニークで美し



西田幾多郎記念哲学館

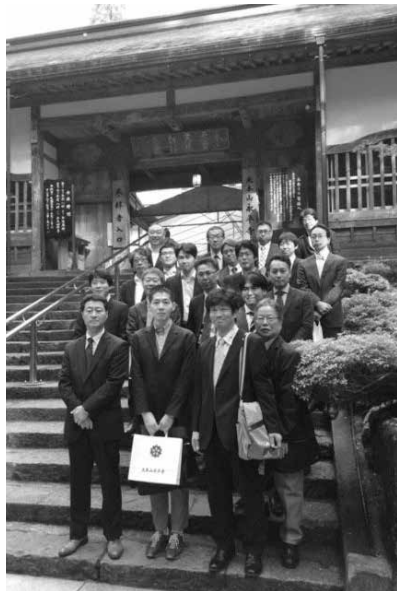
いものであった。外に出るとすでに日は暮れて、夜の北陸道を山代温泉へ向かう。

一〇月二日(金)

三日目は永平寺を見学、参拝し、福井市内の書店を三軒訪問。福井駅より米原経由で帰路につく行程。

天気は良好だが、昨日よりやや肌寒さを感じる。八時二〇分にバスに乗車。北陸自動車道で永平寺に向かう。車窓からは稲刈りが終わった田圃、南には大日山(標高一三六メートル)が見え山頂から流れる雲が美しい。高速道路を降り、しばらく細い山道を過ぎると曹洞宗大本山の永平寺に到着。永平寺では雲水の嗣寛さんが一時間にわたり寺院内を案内してくださった。当日は寺内で催し物があり雲水の姿はあまり見られなかったが、現在では一五〇名ほどの雲水が修行に励んでいるとのこと。寺内では少し寒さを感じたが、真冬の寒さを想像すると、身が引き締まる思いがした。

その後、福井市内に入り、SuperKaBooS新二の宮店(九〇〇坪)を訪問。清水俊浩店長、人文書担当の大島さんが出迎えてくれた。福井大学をはじめ、いくつか



永平寺にて

の大学が近郊にある同店は、先生方や学生がよく利用する店舗である。エントランス左側には各種フェア展開ができるスペースがあり、訪問時にもお客様が興味深そうに棚を見ていた。

昼食後、福井駅から五分ほどの西武百貨店五階に位置する紀伊國屋書店福井店（三六〇坪）を訪問。矢野淳一店長に迎えていただく。福井駅改築に伴い、駅中に商業施設ができたことや、市電の駅がJR福井駅寄りに移動して商店街から離れたことなどによって、福井駅周辺の動線が変化しているとのこと。人文書についても、今ま

での売れ行き傾向に変化が出ていることなどをうかがう。最後の訪問先は紀伊國屋書店福井店の斜め前にある勝木書店本店（二〇〇坪）。北方史彦店長と人文書担当の前田いづ美さんにご対応いただく。古くからのリピーターを持つ同店は、人文書では歴史・宗教書などが堅調とのこと。老舗の風格を感じる店舗である。

以上で全行程が終了。福井駅で解散式を行い、大阪屋栗田の池上さんとはここで別れとなる。

今回の研修旅行もやや駆け足になったが、金沢海みらい図書館・西田幾多郎記念哲学館・永平寺など書店以外の場所も見学でき、その地域の文化に触れたことは、今後の各社営業にとって有益であったと思える。他方、紀伊國屋書店金沢営業部のみなさまや、うつのみやセールスセンター長にお目にかかれたが、他の外商部は訪問できなかった。また別の機会を得られればと思う。

この三日間、お世話になった書店・販売会社・その他の訪問先の皆様には心より御礼申し上げます。また、ご同行いただいた大阪屋栗田の池上貴文さん、トーハンの桜井秀則さん、日販の大橋功幸さん、どうもありがとうございました。

人文会会員名簿

〒113-0033 文京区本郷5-32-21 みすず書房内

2016年12月現在

社 名	担当者	〒	住 所	電 話	FAX
大 月 書 店	佐藤 信治	113-0033	文京区本郷2-11-9	3813-4651	3813-4656
御 茶 の 水 書 房	平石 修	113-0033	文京区本郷5-30-20	5684-0751	5684-0753
紀 伊 國 屋 書 店	志田 則幸	153-8504	目黒区下目黒3-7-10	6910-0519	6420-1354
慶應義塾大学出版会	乙子 智	108-0073	港区三田2-17-31	3451-6926	3451-3122
勁 草 書 房	西野 浩文	112-0005	文京区水道2-1-1	3814-6861	3814-6854
春 秋 社	吉岡 聡	101-0021	千代田区外神田2-18-6	3255-9611	3253-1384
晶 文 社	片桐 幹夫	101-0051	千代田区神田神保町1-11	3518-4940	3518-4944
誠 信 書 房	新保 卓夫	112-0012	文京区大塚3-20-6	3946-5666	3945-8880
青 土 社	森 卓巳	101-0064	千代田区猿樂町2-1-1 浅田ビル1F	3294-7829	3294-8035
創 元 社	水口 大介	162-0825	新宿区神楽坂4-3 煉瓦塔ビル	3269-1051	5229-7139
筑 摩 書 房	藤井若菜彦	111-8755	台東区蔵前2-5-3	5687-2680	5687-2685
東京大学出版会	橋元 博樹	153-0041	目黒区駒場4-5-29	6407-1069	6407-1991
日 本 評 論 社	五月女 公	170-8474	豊島区南大塚3-12-4	3987-8621	3987-8590
白 水 社	岩野 忠昭	101-0052	千代田区神田小川町3-24	3291-7811	3291-8448
平凡社（休会中）		101-0051	千代田区神田神保町3-29	3230-6572	3230-6587
法政大学出版局	朝倉 哲哉	102-0073	千代田区九段北3-2-3 法政大学九段校舎1F	5214-5540	5214-5542
み す ず 書 房	田崎 洋幸	113-0033	文京区本郷5-32-21	3814-0131	3818-6435
ミネルヴァ書房	須藤 圭	101-0052	千代田区神田小川町2-4-17 大宮第一ビル6F	3296-1615	3296-1620
未 來 社	水谷 幹夫	112-0002	文京区小石川3-7-2	3814-5521	3814-5596
吉 川 弘 文 館	片山 伸治	113-0033	文京区本郷7-2-8	3813-9151	3812-3544

代表幹事 田崎洋幸

会計幹事 平石 修

書記幹事 新保卓夫

《◎委員長（幹事） ○副委員長》

販売・企画委員会 ◎朝倉哲哉 ○片桐幹夫・水口大介・森 卓巳・志田則幸・水谷幹夫

調査・研修委員会 ◎橋元博樹 ○片山伸治・西野浩文・藤井若菜彦・五月女 公

広報委員会 ◎岩野忠昭 ○乙子 智・須藤 圭・吉岡 聡・佐藤信治

人文会ホームページ <http://www.jinbunkai.com/>

（各種情報／各社へのリンクはこちらからどうぞ）

人文会ウェブサイト、リニューアルのご案内



「人文会ニュース」のデザイン変更に伴い、ウェブサイトもデザインを一新いたしました。「人文会ニュース」との統一感を出すだけでなく、メニューなどのインターフェースも変更し、これまで以上に人文会の各種情報にアクセスしやすくしました。今後はコンテンツも一層充実してまいりますので、人文書の情報収集にお役立ていただければ幸いです。

URL <http://www.jinbunkai.com/>

目録のご案内

人文図書3分野の基本図書および最新刊を網羅した年度版の図書目録です。

●人文図書目録刊行会発行 A5判・平均245頁 頒価本体(各)286円



◆哲学・思想図書総目録2016-2017年版

約2,200点(140社)収載。

[掲載分野] 哲学・思想一般/倫理学・人生論/美学/各国哲学/現代哲学/宗教一般/宗教学 ほか

ISBN 978-4-915268-34-2



◆心理図書総目録2016-2017年版

約3,200点(120社)収載。

[掲載分野] 心理総論/基礎心理/発達心理/教育心理/臨床心理/精神分析/精神医学/社会心理 ほか

ISBN 978-4-915268-35-9



◆社会図書総目録2016-2017年版

約2,800点(140社)収載。

[掲載分野] 社会一般/家族社会/地域社会/産業労働/福祉教育/社会心理/社会問題/文化文明論/文化人類学 ほか

ISBN 978-4-915268-36-6

*ご注文は書店をお願いいたします。

●人文会

〒113-0033 東京都文京区本郷5-32-21(みすず書房内)

●人文図書目録刊行会

〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24(トーハンビル内)

TEL 03-3266-9521(事務局)

『人文書販売の手引き〔第2版〕』刊行のお知らせ

『人文書販売の手引き』とは、人文会が編集・発行する書店員様向け人文書販売マニュアルです。このたび、データを大幅に更新した第2版が完成しました。より使いやすくなった「人文書販売の手引き」を店頭活性化にぜひご活用ください。

（前略）しかしながら昨今、状況は一変しました。中堅やベテランといえるキャリアの方から教を請われることが多くなり、このことは当然、若手の書店員の方々にも影響してしまいます。なので、このような状況を打破するためにも、マニュアルの作成が必要であると判断しました。

「人文書販売の手引き」には、役立つヒントは載っていますが答えは載っていません。あくまで骨組みの提示であり、肉付けするのはそれぞれのご担当者です。大変恐縮ですが、試行錯誤して頂きながら、個々のお店に合った答えを導き出して頂ければ幸いです。

（『人文書販売の手引き』第2版刊行に際して）より）

人文書販売の手引き		人文書販売の手引き	
1. 人文書の定義	2. 人文書の分類	3. 人文書の選定	4. 人文書の陳列
5. 人文書の販売	6. 人文書の宣伝	7. 人文書の在庫	8. 人文書の廃棄
9. 人文書の価格	10. 人文書の利益	11. 人文書の売上	12. 人文書の顧客
13. 人文書の競合	14. 人文書の市場	15. 人文書の未来	16. 人文書の責任
17. 人文書の倫理	18. 人文書の文化	19. 人文書の教育	20. 人文書の社会
21. 人文書の歴史	22. 人文書の地理	23. 人文書の政治	24. 人文書の経済
25. 人文書の法律	26. 人文書の医学	27. 人文書の工学	28. 人文書の芸術
29. 人文書の科学	30. 人文書の宗教	31. 人文書の哲学	32. 人文書の文学
33. 人文書の歴史	34. 人文書の地理	35. 人文書の政治	36. 人文書の経済
37. 人文書の法律	38. 人文書の医学	39. 人文書の工学	40. 人文書の芸術
41. 人文書の科学	42. 人文書の宗教	43. 人文書の哲学	44. 人文書の文学
45. 人文書の歴史	46. 人文書の地理	47. 人文書の政治	48. 人文書の経済
49. 人文書の法律	50. 人文書の医学	51. 人文書の工学	52. 人文書の芸術
53. 人文書の科学	54. 人文書の宗教	55. 人文書の哲学	56. 人文書の文学
57. 人文書の歴史	58. 人文書の地理	59. 人文書の政治	60. 人文書の経済
61. 人文書の法律	62. 人文書の医学	63. 人文書の工学	64. 人文書の芸術
65. 人文書の科学	66. 人文書の宗教	67. 人文書の哲学	68. 人文書の文学
69. 人文書の歴史	70. 人文書の地理	71. 人文書の政治	72. 人文書の経済
73. 人文書の法律	74. 人文書の医学	75. 人文書の工学	76. 人文書の芸術
77. 人文書の科学	78. 人文書の宗教	79. 人文書の哲学	80. 人文書の文学
81. 人文書の歴史	82. 人文書の地理	83. 人文書の政治	84. 人文書の経済
85. 人文書の法律	86. 人文書の医学	87. 人文書の工学	88. 人文書の芸術
89. 人文書の科学	90. 人文書の宗教	91. 人文書の哲学	92. 人文書の文学
93. 人文書の歴史	94. 人文書の地理	95. 人文書の政治	96. 人文書の経済
97. 人文書の法律	98. 人文書の医学	99. 人文書の工学	100. 人文書の芸術



『人文書販売の手引き』第2版は、人文会ウェブサイトよりダウンロードできますので、是非ご利用、ご活用ください。

<http://www.jinbunkai.com/>

『人文書販売の手引き〔第2版〕』

編集・発行：人文会

B5判並製84頁 2015年10月1日発行

ISBN978-4-915735-07-3（非売品）

身体はトラウマを 記録する 脳・心・体のつながりと 回復のための手法

ベッセル・ヴァン・デア・コーク

柴田裕之 訳 杉山登志郎 解説

世界的第一人者の集大成

トラウマの臨床と研究を牽引する著者が、薬物療法や従来の心理療法の限界を示し、身体志向の様々な治療法の効果を最新の脳科学で立証する全米ベストセラー！ ▶3800円＋税

台湾少女、 洋裁に出会う

母とミシンの60年

鄭 鴻生
天野健太郎 訳

1930年代、日本統治下の台南で日本の婦人雑誌に魅了された少女が自ら洋裁学校を開くまで。母が息子に語った、もう一つの「カーネーション」。

▶1700円＋税

紀伊國屋書店

出版部:東京都目黒区下目黒 3-7-10
営業TEL03(6910)0519

税別



アメリカ型
資本主義は

いかにして生まれたか 大月書店
70th

新自由主義と 金融覇権

現代アメリカ経済政策史

萩原伸次郎 著

ニクソン政権から現在に至るアメリカの経済政策の展開を金融覇権の生成・確立・危機という観点から分析。A5判・2900円

東京文京 大月書店 電話03-
本郷2-11 3813-4651
otsukishoten.co.jp(メルマガ配信中)

慶應義塾大学出版会

<http://www.keio-up.co.jp/>

フランス・ユダヤ の歴史 ◆上◆

菅野賢治 [著]



◆ 古代からドレフュス事件まで
中世のラシによる聖典注解、旧
体制下に花開いたユダヤ教文
化、19世紀末のドレフュス事件
まで、異文化の相克とアイデン
ティティー構築の過程をたどる。

◎5,000円

◆ 二〇世紀から今日まで

両大戦間期のアシュケナジ移
民、ヴァイシー政権下の迫害から、
シオニズム賛否に揺れる現代ま
で、「フランス人」と「ジュイフ」
の二重性を生きる人々の感性を
探る。

◎4,500円



〒108-8346 東京都港区三田2-19-30 【価格税抜】
Tel 03-3451-3584 Fax 03-3451-3122

ハワイ日系社会 ものがたり

白水繁彦・鈴木啓 編

本体価格2,800円＋税

ある婦米二世ジャーナリストの証言、ハ
ワイ日系人はどう生きてきたか。日系社
会ウォッチャーの本音トーク。

語り継ぐ女性学

次代を担う女性たちへのメッセージ

神戸女学院大学女性学インスティテュート編

本体価格2,500円＋税

様々な文脈におけるジェンダーの働きに
ついて女性の視点から問い直す。

御茶の水書房

東京都文京区本郷5-30-20

tel 03-5684-0751/fax 03-5684-0753

「正しい政策」がないならどうすべきか

政策のための哲学

ジョナサン・ウルフ／大澤 津・原田健一朗 訳

本体3200円＋税

現実世界で直面する政策課題に、哲学はどう答えるのか。哲学と政策の問いをつなぐひとつの方法を示す。

若者の〈溶解〉

川崎賢一・浅野智彦 編著

本体3200円＋税

「若者」というカテゴリーの輪郭が溶解してしまった現在において、「若者について論じる」ことの可能性のありかを示す。

生物学の哲学入門

森元良太・田中泉史

本体2400円＋税

基礎から最新の話題まで、生物学を哲学的に学び、生物学を通じて哲学を学べる「生物学の哲学」の決定版入門書。

勁草書房 けいそう TEL 03-3814-6861
FAX 03-3814-6854
〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1
<http://www.keisoshobo.co.jp>

自分で考えよう

— 世界を知るための哲学入門 —

教育の国スウェーデン発、
子どもと大人のための
考えるレッスン。

オールカラー&イラスト多数



人生に役立つ哲学の知恵と思考法をわかりやすく
伝える「考える力」の基礎づくりに最適な入門書。

ペーテル・エクベリ 著 1512円

晶文社 <http://www.shobunsha.co.jp>
〒101-0051 千代田区神田神保町1-11
TEL.03-3518-4940 Fax.03-3518-4944 価格税込

精神分析たとえ話

タヴィストック・メモワール

飛谷 渉 著「精神分析ってなんだ??」
多彩なたとえ話を通して考える。軽妙な
語り口に誘われ分析を受けたいくなる、エッ
セイ風のユニークな指南書! 2300円

稲妻に打たれた欲望

精神分析によるトラウマからの脱出

ソニア・キリアコ 著/向井雅明 監訳 様々な
トラウマに対して、出来事ではなく自分
自身の主体を中心に据えて立ち向かって
ゆくことの大切さを提示する。 2700円

マイ ステップ (CD付き)

性被害を受けた子どもと支援者のための心理教育

野坂祐子・浅野恭子 著 子どもの心理教育
用ワークブック(CD-ROMに収録)＋実施マ
ニュアル。心理療法の専門家でなくても、短
期間で効果的な支援を行える。 2600円

誠信書房 東京都文京区大塚 3-20-6
TEL. 03-3946-5666 (税別)

話題沸騰! 好評3刷

藤田一照×永井均×山下良道 著

〈仏教3・0〉を哲学する

既存の仏教を超える、新たな3・0の仏教とは。
混沌の時代を切り開く、禅僧と仏教僧と哲学者
による白熱の徹底討論。定価(本体1800円＋税)

佐治晴夫 著 相対論と量子論のはなし

14歳のための宇宙授業

現代科学を詩のように。感性で楽しむ宇宙論の
ソナチネ。 定価(本体1800円＋税)

春秋社 東京都千代田区外神田2-18-6
TEL 03-3255-9611 FAX 03-3253-1384
<http://www.shunjusha.co.jp/>

異形の念仏行者

内村和至

もうひとつの日本精神史

信仰を支えるものとは何か？ 正統からはずれていった者たちの宗教テクストを精緻に読み直すことでとりつく、傍流の日本精神史。

3200円

ナポレオンと神

竹下節子

神たうと世界史の中心舞台に躍り出た、ナポレオンの教知と野心。ヨーロッパ精神の核心を活写する。思想史研究の新天地。

2600円

見て読んで書いて、死ぬ

高山 宏

この本をひとたびめくると、次々と本を読みたくなる！ 学魔・高山宏による空前絶後の書物評、映画評論集

3200円

青土社

東京神田神保町 ☎03-3294-7829
http://www.seidosh.co.jp/ (価格税別)

時間と 自由意志

自由は存在するか
青山拓央

私たちは多くの可能性からただ一つの現実を選択しているように見える。だがそれは本当なのか。この問いを糸口にして自由とは何かという哲学の難問に新たな地平をひらく圧倒的論考。

● 本体2800円＋税

筑摩書房

サービスセンター 048-651-0053

* 価格は定価 (本体価格＋税)

http://www.chikumashobo.co.jp/

精霊の箱

チューリングマシンをめぐる冒険

田口

川添 愛



好評を博した『白と黒のとびら』の待望の続編！ 謎解きを楽しみながら、「計算」の本当の姿に迫る。

各2600円

東京大学出版会

〒153-0041 東京都目黒区駒場4-5-29
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991
http://www.utp.or.jp/ (価格税別)

創元社

近代日本学校制服図録

難波知子「著」

約800点の図版で編んだ比類ない学校文化図録。
◆B5判・並製・248頁・定価(本体3200円＋税)

越智啓太「編」

心理学ビジュアル百科

基本から研究の最前線まで

オールカラー、約2000点の図版で心理学の全貌を紹介。
◆245 x 189ミリ・上製・248頁・定価(本体3200円＋税)

〈本社〉大阪市中央区淡路町4-3-6
Tel.06-6231-9010 Fax.06-6233-3111
〈支店〉東京都新宿区神楽坂4-3 Tel.03-3269-1051

2016-2017年版

哲学・思想図書総目録

哲学・思想一般 / 倫理学・人生論 / 美学 / 各国哲学 / 現代哲学 / 宗教一般 / 主教学 ほか

心理図書総目録

心理総論 / 基礎心理 / 発達心理 / 教育心理 / 臨床心理 / 精神分析 / 社会心理 ほか

社会図書総目録

社会一般 / 家族社会 / 地域社会 / 産業労働 / 福祉教育 / 社会心理 / 社会問題 / 文化文明論 / 文化人類学 ほか

◎A5判・平均245頁 ◎頒価本体各286円

人文図書目録刊行会

〒162-8710

東京都新宿区東五軒町6-24
トーハンビル内

密教 大衆に生きるワザ

統合瞑想があなたを変える

大下大圓 著 [飛騨千光寺住職]

宗教者・スピリチュアルケアワーカーとしての活動から、読者が密教パワーを実践し、安らかに生活できるよう、易しく解説。

◎1600円＋税

■悩める親や教師、必携！

やっかいな子どもや大人との
接し方マニュアル

宮田雄吾 著

◎1600円＋税

虐待・DV・トラウマにさらされた
親子への支援

子と母の親心理療法

アリシア・F・リーバマン ほか 著

渡辺久子 監訳

◎2400円＋税

日本評論社

〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
TEL: 03-3987-8621 <http://nippyo.co.jp>

翻訳そして／あるいは
パフオーマティヴ

脱構築をめぐる対話

ジャック・デリダ 著・豊崎光一 著・訳 / 守中高明 監修

デリダが最も信頼する相手と、講義や講演にもない率直な語り口で、自身の来歴から哲学の諸問題までを語り合う対話。世界初の書籍化。
四六判・上製 ◇182頁 ◇本体2000円＋税

法政大学出版局

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3
☎ 03(5214)5540 <http://www.h-up.com/>

《叢書・ウニベルシタス1048》

ロジャー・ハリソン 新井潤美監修 新井雅代訳
わたしはこうして
執事になった

執事には誰がどういうキャリアを経てなるのか。五人が語る笑いと苦勞の年月。 本体2600円＋税

ロジャー・ハリソン 新井潤美監修 新井雅代訳
おだまり、ローズ 【好評既刊】
子爵夫人付きメイドの回想 本体2400円＋税

白水社

東京都千代田区神田小川町3-24
tel.03-3291-7811 / fax.03-3291-8448
<http://www.hakusuisha.co.jp/>

2016年12月25日発行 年3回発行 第125号

発行所 人文会

〒113-0033 東京都文京区本郷5-32-21 みすず書房内

編集協力 アジュール・プロダクション

印刷 中央精版印刷株式会社

〈非売品〉